

## アザラシの生息状況の調査

資料名	海棲ほ乳類生息状況調査業務報告書(平成20年度)
調査主体	北海道
評価項目	1. 特異な生態系の生産性が維持されていること 3. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること 4. 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること
管理目標	アザラシの保護管理の推進
モニタリング項目	アザラシ類個体群の動態把握
評価指標	来遊頭数
評価基準	アザラシの保護管理に重大な支障を生じさせないこと (絶滅のおそれを生じさせない)

<平成20年度までの具体的調査手法>

陸上及び海上から目視による確認調査

<平成20年度までの具体的調査データ>

(陸上からのセンサス結果)

調査日	発見アザラシ類	個体数	備考
12/24	ゴマフアザラシ	2	
1/22	ゴマフアザラシ	2	
2/19	ゴマフアザラシ	25	トド2群24+
2/25	ゴマフアザラシ	14	

(海上からのセンサス結果)

調査日	アザラシ類			備考
	上陸	遊泳	合計	
2/18	14	2	16	ツチクジラ8+
2/25	0	3	3	クラカケアザラシ1含む。イシイルカ3
2/26	4	2	6	種不明アザラシ2含む。ツチクジラ頭数不明
3/18	0	3	3	種不明アザラシ2含む。ミンククジラ6、ネズミイルカ1

<コメント>

- ・斜里側ではゴマフアザラシが、羅臼側ではゴマフアザラシとクラカケアザラシが確認できた。
- ・知床半島へのアザラシの来遊時期のピークは2月。
- ・アザラシの上陸は流氷上のみ。羅臼側では、流氷の淵で複数頭のアザラシが確認。
- ・ゴマフアザラシの遊泳は比較的推進の浅いところ。

(今後の課題)

- ・調査手法について検討。

<評価>

- ・評価に足るデータが得られていないため、評価できない。